

平成 30 年度

病虫害発生予察情報 第 18 号

9 月月報

北海道病虫害防除所 平成 30 年 10 月 17 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨・並照』中旬は高気圧に覆われ、顕著な少雨・多照－

この期間の天気は、上旬は低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日が多く、5 日は台風第 21 号の影響で全道的に雨が降り、大荒れの天気となった所もあった。中旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。下旬の天気は数日の周期で変わった。気温は上旬と下旬は平年より高く、月平均気温も高かった。降水量は中旬は平年よりかなり少なく、下旬は少なく、月降水量はかなり少なかった。日照時間は上旬は平年より少なかったが、中旬はかなり多く、下旬はかなり少なく、月間日照時間は平年並だった。なお、1961 年の統計開始以降、中旬の太平洋側と北海道地方の降水量は最も少なく、日照時間は北海道地方及び各地域で最も多かった。また、1946 年の統計開始以降、日本海側とオホーツク海側の月降水量が最も少なかった。

上旬：1 日は次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。2 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。3 日は高気圧の張り出しの中となって、日本海側北部やオホーツク海側を中心に晴れたが、湿った気流の影響で日本海側南部や太平洋側では雨の降った所があった。日降水量は白老町森野で 72.0mm など。4～5 日は気圧の谷や台風第 21 号の影響で全道的に雨が降り、大荒れの天気となった所もあった。日降水量は 4 日に釧路市音別町二俣で 58.0mm、5 日に伊達市大滝で 116.0mm など。6 日は気圧の谷の通過により、大気の状態が不安定となって日本海側などで雨の降った所があったが、次第に気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れた。7 日は前線を伴った低気圧の影響で雨の降った所が多かった。8 日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側を中心に晴れた。9～10 日は気圧の谷の中となって太平洋側を中心に雨の降った所が多かった。

中旬：11～12 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。13～14 日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。15 日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。16 日は気圧の谷の影響で曇った所が多く、雨の降った所もあった。17～19 日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れたが、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。20 日は気圧の谷の影響で日本海側南部を中心に雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。

下旬：21 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。22～23 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は 22 日に登別市カルルスで 97.0mm など。24 日は前線を伴った低気圧が接近して大気の状態が不安定となり、日本海側や太平洋側西部を中心に雨が降った。日降水量は奥尻空港で 67.0mm など。25 日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側を中心に晴れた。26 日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。27～28 日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。日降水量は 28 日に知内で 58.5mm など。29 日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。30 日は前線と台風第 24 号の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は浦河町中杵臼で 67.0mm など。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+0.6	高	41	か少	109	並
日本海側10地点平均	+0.5	高	39	か少	110	多
オホーツク海側4地点平均	+0.9	高	25	か少	115	多
太平洋側8地点平均	+0.5	高	52	か少	104	並

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

Ⅱ. 病虫害発生概況

A. 水稻

1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 やや多 <7月5日付け注意報第5号>

予察田の「きらら 397」における穂いもちの発生量は岩見沢市、北斗市で平年より多く、比布町では平年より少なかった。節いもちの発生量は、岩見沢市、北斗市では平年より多く、比布町では平年より少なかった。

予察田における水稻の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	90.5	42.2	—	—	7
	ななつぼし	68.7	60.4	—	—	7
比布町	きらら397	17.7	77.4	21.9	75.3	10
	ななつぼし	33.0	—	37.5	—	—
北斗市	きらら397	99.2	43.5	99.6	48.9	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)本年値の一は成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稻の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	41.9	12.2	—	—	7
	ななつぼし	53.4	31.6	—	—	7
比布町	きらら397	2.6	16.8	5.8	21.4	10
	ななつぼし	2.7	—	12.5	—	—
北斗市	きらら397	30.0	12.3	38.8	20.6	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)本年値の一は成熟期を迎えたため調査終了

2. 紋枯病 発生量 やや少

予察田における発生量は、北斗市では平年並で、岩見沢市では平年よりやや少なかった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	17.9	19.5	17.9	26.5	7
北斗市	きらら397	16.0	19.2	16.0	18.1	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. ニカメイガ 発生量 少

予察田における被害茎率は、長沼町、北斗市ともに平年より低かった。

予察田におけるニカメイガによる被害茎率(%)

長沼町		北斗市	
本年	平年	本年	平年
2.3	6.4	0	1.0

注) 平年数: 長沼町は6年、北斗市は10年。

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや少

予察灯による成虫誘殺数は、比布町では平年より多く、長沼町、北斗市では平年より少なかった。

予察田における成虫のすくい取り虫数は、北斗市で平年よりやや少なかった。長沼町、比布町では捕獲がみられなかった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	19	108.1	4	21.7	0	26.8	0	2.5	0	0.3	2.5	2.5
2半旬	—	55.0	4	12.0	—	6.0	0	1.3	0	1.3	0	2.5
3半旬	21	22.9	9	9.9	2	2.0	0	1.5	0	0.8	2.5	1.5
4半旬	9	8.2	244	1.1	10	1.0	0	0.5	0	0	0	1.0
5半旬	3	1.4	0	0.4	0	0.2	0	0.2	—	1.9	—	0
6半旬	12	3.0	0	0.1	0	0.1	0	0	—	—	—	0
平年数	10		10		10		6		10		10	

注) —は調査不能または収穫期を迎えたため調査終了

B. 豆類

1. ペと病(大豆) 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のペと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	19.0	33.1	16.0	39.8	10

2. アズキノメイガ(小豆) 発生量 やや少

予察ほにおける被害株率および被害莢率は、長沼町では平年より高く、芽室町で平年よりやや低く、訓子府町で平年より低かった

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

地点	品種	被害株率(%)		被害莢率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	96.0	67.6	16.9	4.4	10
芽室町	きたのおとめ	22.0	41.1	1.0	2.0	10
訓子府町	きたのおとめ	16.0	51.7	0.4	2.7	10

C. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

＜7月5日付け注意報第4号＞

予察ほにおける発生量は、芽室町の「あまいぶき」では平年よりやや少なく、長沼町の「あまいぶき」では平年並であった。訓子府町の「リッカ」では平年より少なかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	58.8	54.8	78.4	62.7	82.8	75.1	3
	あまいぶき	72.8	76.5	90.0	86.0	91.2	92.6	8
芽室町	リッカ	40.8	50.1	44.8	59.2	66.0	71.8	3
	あまいぶき	61.6	77.1	66.0	88.3	82.0	97.7	6
	スタウト	44.8	49.1	52.4	59.9	72.0	59.9	8
訓子府町	リッカ	44.0	72.0	46.0	82.4	55.6	89.6	9

2. ヨトウガ(第2回) 発生量 並

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、長沼町、芽室町および訓子府町のいずれの地点でも平年並であった。

一般ほにおける9月3半旬の巡回調査によると、前年より被害株率が高い地域が多かったが、被害株率50%以上となった地点は、後志、上川地方で各々1地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	55.5	53.4	38	39.0	48	41.0
2半旬	63.0	59.2	41	42.3	51	45.0
3半旬	59.5	67.4	45	43.4	51	50.2
4半旬	75.5	68.8	44	47.7	52	57.8
5半旬	76.5	73.2	51	50.1	58	60.8
6半旬	80.0	76.3	49	51.7	64	64.2
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター		地点数	9月3半旬		普及センター		地点数	9月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	南東部	1	6.0	4.0	網走	本所	10	8.4	8.4
石狩	本所	4	13.0	10.0		清里	3	5.0	5.3
後志	本所	3	43.3	5.3		網走	2	3.0	2.5
胆振	本所	4	3.8	1.5		美幌	5	0	2.4
	東胆振	3	5.3	5.3		遠軽	9	11.8	8.2
上川	富良野	3	39.3	6.3	十勝	本所	5	1.0	3.8
	大雪	3	15.3	11.3		東部	6	3.3	0
	士別	1	0	6.0		東北部	4	6.3	21.3
	名寄	2	23.0	0		北部	3	5.0	0
						西部	3	8.7	2.7
						南部	3	0.3	0

D. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 少

長沼町の予察ほにおけるだいこん（夏播き）の軟腐病の発生は認められなかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	0	3.1	0	4.5	0	4.7	10

2. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市で平年よりやや多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	16.5	23	10.0
2半旬	7	10.1	14	11.1
3半旬	4	17.6	25	11.0
4半旬	3	35.4	20	13.6
5半旬	16	24.2	18	7.8
6半旬	6	25.4	11	11.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生幼虫数。

3. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、比布町、芽室町で平年並、北斗市では平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。訓子府町では、誘殺は認められなかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より多く、長沼町で平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	15.8	31.3	4	4.0	3	3.7	1	0.1	0	1.8
2半旬	12.2	31.6	0	1.0	4	4.3	0	0.4	0	1.0
3半旬	18	13.7	1	0.7	9	6.4	0	0.3	0	0.7
4半旬	2	16.6	1	0.3	7	4.9	0	0.3	0	1.2
5半旬	1	8.2	3	3.0	3	6.4	0	0.6	0	0.5
6半旬	2	7.8	6	4.3	1	8.2	0	0.2	0	0.7
平年数	10		3		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	9.2	39	8.6
2半旬	1	7.4	4	9.2
3半旬	1	5.9	1	1.8
4半旬	1	5.0	6	3.2
5半旬	1	3.7	2	3.4
6半旬	1	2.5	1	3.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生幼虫数。

E. りんご

1. 黒星病

発生量 多

< 4月10日付け注意報第2号 >

長沼町の予察園（無防除）における発生量は、「昂林」で平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では「つがる」および「王林」とともに発生が認められた。

9月3半旬の巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	47.8	51.6	31.5	25.7	9
	つがる	-	38.2	-	18.1	9
余市町B	つがる	34.0	-			-
余市町C	王林	2.0	-			-

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町（慣行防除）は9月5週目のデータ

注2) -は調査不能または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	3	15.6	22.0
胆振	本所	1	5.0	0
渡島	本所	4	51.9	8.5
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病

発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における「王林」の発生量は、平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められた。

一般園における巡回調査の報告によると、感受性品種を調査対象にしている後志、渡島、留萌地方で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	6.4	8.4	0.1	0.2	8
	王林(徒長枝)	3.0	5.6	0.1	0.1	8
余市町C	王林	2.0	-			-

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町（慣行防除）は9月5週目のデータ

注2) -は平年値なしを示す

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	3	0.7	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	2.0	1.0
留萌	南留萌	1	62.3	38.3

3. モモシンクイガ 発生量 並

長沼町の予察園におけるモモシンクイガの産卵数は平年より少なかった。予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、余市町Bでは平年より少なく、余市町Aでは平年よりやや多かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市、壮瞥町で平年より多く、七飯町は平年よりやや多く、岩見沢市、旭川市で平年並、伊達市では平年より少なかった。

予察園におけるモモシンクイガの産卵数およびフェロモントラップによる誘殺数										
月・半旬	産卵数		被害果率(%)		フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町				長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	33	71.4	100	100	19	25.4	13.0	16.3	16.0	22.6
2半旬	6	40.0	100	100	2	19.6	3.8	8.1	3.8	12.4
3半旬	2	15.9	100	100	0	6.1	0.8	3.1	1.3	4.7
4半旬	－	3.3	－	100	0	0.7	3.8	1.1	0.4	3.4
5半旬					0	0.3	9.5	0.5	0	0.3
6半旬					0	0	5.7	0.1	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 産卵数は100果調査。

注3) —は調査不能。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数												
月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0.8	1.3	16.8	2.5	13.5	19.9	18.3	5.1	27.5	12.3	7.5	9.1
2半旬	0.8	1.2	5.6	0.7	5.0	12.6	9.2	3.1	3.0	7.8	4.0	5.6
3半旬	0.6	0.5	1.1	0.2	0	6.0	0.6	0.9	1.2	3.9	0	1.0
4半旬	0.4	0.1	0	0	0	5.0	0.4	0.7	1.5	1.8	0	0.3
5半旬	0	0	0	0	0	0.3	0	0.1	0.8	1.1	0	0
6半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.4	0	0
平年数	10		10		10		10		9		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニは、長沼町では平年より少なく、余市町Aおよび同町Bでは発生が認められなかった。ナミハダニは、長沼町、余市町A、同町Bともに発生が平年より少なかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況												
月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	6.4	-	-	-	-	0	3.4	-	-	-	-
2半旬	1	0.8	-	0.7	-	1.2	0	0.6	-	2.9	-	3.8
3半旬	0	1.9	0	0.3	0	0.5	0	0.8	1	0	1	3.3
4半旬	0	0.3	-	0	-	3.6	1	0	-	3.0	-	0.2
5半旬	0	0.1	-	0.7	-	0	0	0.2	-	0	-	0
6半旬	0	0	0	0.1	0	0.8	0	0	0	0.8	0	1.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生数。

注3) —は未調査。

5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率については、長沼町では平年並であった。余市町Aおよび同町Bでは被害葉が認められなかった。予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町では平年よりやや少なく、余市町A、同町Bでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、増毛町で平年よりやや多く、石狩市で平年並、旭川市では平年よりやや少なく、岩見沢市、札幌市、伊達市、壮瞥町、七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	11	26.1	-	0.7	-	0	87	74.4	112	443.4	27.3	119.2
2半旬	15	29.4	-	2.5	-	0.8	39	45.4	70	496.8	26.9	161.5
3半旬	22	30.6	0	1.2	0	0.4	10	31.1	78	290.1	10.5	126.1
4半旬	34	35.9	0	2.5	0	1.1	6	12.2	55.2	171.2	4.5	88.6
5半旬	48	41.0	-	0.3	-	0.6	1	3.9	18	116.8	1.5	43.3
6半旬	65	42.4	0	2.3	0	0.9	1	1.4	10.8	24.0	0.9	20.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) -は未調査。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	1.0	128.5	1.4	12.4	3.5	12.7	1.2	17.3	2.3	586.7	1.5	52.3	0.8	0.1	515.2	207.1
2半旬	1.0	68.8	1.3	6.4	3.5	23.3	0.8	28.7	4.2	607.7	2.5	80.1	1.0	2.0	613.3	230.9
3半旬	0.5	21.7	0.3	2.9	11.0	9.5	0	15.9	1.3	449.2	2.2	108.1	0	1.7	133.0	260.3
4半旬	0	7.2	0	0.9	11.0	2.8	0	3.3	0.8	292.6	1.5	108.1	0	0.7	135.0	257.3
5半旬	0	3.4	0	0.3	17.0	1.5	0	4.4	0	112.7	0.8	52.3	0	0.3	33.0	181.7
6半旬	0	2.9	0	0.2	9.0	1.0	0	0.4	0.6	51.0	0	26.7	0	0	10.0	37.5
平年数	10		10		7		10		10		9		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。